

大安寺の出土品

大安寺二丁目他 史跡大安寺旧境内

奈良時代～平安時代前期（8世紀～10世紀）



「東院」



「大寺」



「大安寺 左右酒」



佐波理箸・水晶玉



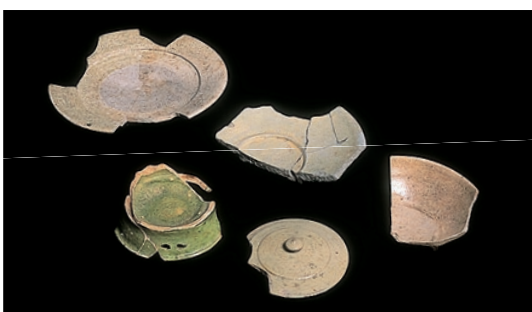
奈良三彩



唐三彩



白磁・青磁



緑釉陶器・灰釉陶器



黒色土器

大安寺は平城京の左京六条四坊につくられた官寺で南大寺とも呼ばれ、六条大路の南にも七重塔のそびえる塔院がある大規模な寺院でした。「東院」、「大安寺 左右酒」や「大寺」と書かれた**墨書土器**^{ぼくしょどき}が出土しており、中国の**唐三彩**^{とうさんさい}や、それを模して奈良時代につくられた**奈良三彩**^{ならさんさい}は寺院で仏具などに使われる高級品でした。中国から輸入された**白磁**^{はくじ}や**青磁**^{せいじ}、平安時代の**緑釉陶器**^{りよくゆうとうき}、**灰釉陶器**^{かいゆうとうき}や**黒色土器**^{こくしょどき}もあり、平安時代までこの寺が栄えたことをものがたっています。

しゅうようがらん
主要伽藍のひとつ、講堂の垂木の先には二彩を施した垂木先瓦が取り付けられていたこともわかります。また、大安寺からは藤原京に営まれた前身の大官大寺の軒瓦も出土しています。奈良時代の大安寺の軒瓦と比較してみてください。鬼瓦は奈良時代の官寺の鬼瓦を代表するものです。



垂木先瓦



大官大寺の軒瓦



大安寺の軒瓦



平城宮系の軒瓦



鬼瓦